

中小企業景況調査報告書

令和7年10～12月期実績
令和8年1～3月期見通し

鹿児島県商工会連合会

(令和7年12月発行)

この調査は、商工会地域の産業状況等地域の経済動向について、四半期毎に変化の実態等諸状況を迅速・的確に収集して、全国商工会連合会と連携し、全国一斉に実施しているものです。

この報告書の中で、用いられているD・I指数とは、ディフュージョン・インデックスの略で、【増加・上昇・好転】の割合から【減少・低下・悪化】の割合を差し引いた値で企業経営者の景気動向を表す指数として利用されています。

〈お天気マークの説明〉

 特に好調 +30.0 以上	 好調 +29.9～ +10.0	 まあまあ +9.9～ ▲9.9	 不振 ▲10.0～ ▲29.9	 極めて不振 ▲30.0 以上
---	---	---	---	--

- 調査対象期間 令和7年10～12月期を対象とし、調査時点は令和7年11月15日とした。
令和8年1～3月期は予測値となる。
- 調査方法 商工会の経営指導員による訪問及び面接調査による。
- 調査対象商工会 かごしま市・南九州市・薩摩川内市・長島町・伊佐市・始良市・霧島市
志布志市・大崎町・垂水市・東串良町・西之表市・龍郷町・徳之島町
- 回答企業 対象企業 206企業
製造業：41企業 建設業：30企業 小売業：61企業 サービス業：74企業

県内産業別業況DI

	製造業	建設業	小売業	サービス業
6年10月～12月期	 ▲9.3	 11.1	 ▲25.9	 ▲11.5
7年1月～3月期	 ▲18.6	 10.4	 ▲13.8	 ▲26.0
7年4月～6月期	 ▲12.5	 16.6	 ▲23.3	 ▲22.4
7年7月～9月期	 ▲31.7	 20.0	 ▲37.7	 ▲15.8
7年10月～12月期	 ▲21.9	 10.0	 ▲39.3	 ▲21.6
来期見通し(1～3月期)	 ▲19.5	 ▲10.0	 ▲32.7	 ▲23.0

総合(業況)

前年同期(令和6年10月～12月期)と比較した今期(令和7年10月～12月期)の業況は、製造業▲21.9(前年同期比12.6ポイント悪化)、建設業10.0(前年同期比1.1ポイント悪化)、小売業▲39.3(前年同期比13.4ポイント悪化)、サービス業▲21.6(前年同期比10.1ポイント悪化)となった。

また前期(令和7年7月～9月期)と比較すると、製造業9.8ポイント改善、建設業10.0ポイント悪化、小売業1.6ポイント悪化、サービス業5.8ポイント悪化となった。今期については、11月からの最低賃金の改定並びに10月からの値上げラッシュ。経営上の問題点では、すべての業種で原材料の上昇価格に最も頭を抱えており、一番の問題点とした。

なお、来期(令和8年1月～3月期)の見通し(DI)は、今期と比較すると、製造業2.4ポイント、小売業6.6ポイント改善の見通しとなるものの、建設業20.0ポイント、サービス業は1.4ポイント悪化となる見通しである。引き続き、値上げによる原材料の上昇価格が課題であるが、ガソリン暫定税率廃止が物流コスト減に繋がり、物価下落となるよう期待したい。一方で人件費の増加により価格転嫁ができるのかが課題となっており、さまざまな要因が需要の停滞をもたらし、引き続き中小企業・小規模事業者において利益の確保が厳しい状況が続くと思われる。

業種別景気動向

【製造業】 有効回答数 41 企業

調査対象企業内訳：食料品(20)、飲料・飼料・たばこ(6)、繊維工業(1)、衣類・その他繊維製品(1)、一般機械器具(2)、家具・装備品(1)、木材・木製品(1)、プラスチック製品(1)、印刷・同関連(3)、金属製品(2)、窯業・土石製品(1)、その他(2)

	売上額	採算	資金繰り	業況
6年10月～12月期	18.6	▲23.2	▲4.7	▲9.3
7年1月～3月期	2.3	▲23.3	▲11.9	▲18.6
7年4月～6月期	▲2.4	▲31.0	▲2.4	▲12.5
7年7月～9月期	▲21.9	▲43.9	▲19.6	▲31.7
7年10月～12月期	▲17.1	▲26.8	▲10.0	▲21.9
来期見通し1～3月期)	▲7.4	▲19.5	▲2.4	▲19.5

<調査企業が感じている景気判断コメント>

- ・世界を巻き込んだ抹茶ブームと市場の荒茶取引価格の高騰。 (製茶製造業)
- ・売上等景気があまりよくないのに最低賃金の上昇、人件費の高騰となり原材料費も上昇する中に製品価格への転嫁が追いつかない。銀行もここ1・2年は貸し渋りで資金繰りが難しくなっている。 (畜産食料品製造業)
- ・機器類の材料費が上昇しており、入替を保留するほうが増えてきている。なかなか設備投資するのが厳しい。 (強化プラスチック容器等製造業)

経営上の問題点

第1位	原材料価格の上昇	45.7%	(前期比 +10.4)
第2位	生産設備の不足・老朽化	11.4%	(前期比 +2.6)
第3位	大企業の進出による競争の激化	5.7%	(前期比 -0.2)

【建設業】 有効回答数 30 企業

調査対象企業内訳：総合工事業(22)、職別工事業(4)、設備工事業(4)

	完成工事額	採算	資金繰り	業況
6年10月～12月期	25.9	▲3.7	7.4	11.1
7年1月～3月期	17.2	▲20.7	6.9	10.4
7年4月～6月期	24.2	▲10.3	10.0	16.6
7年7月～9月期	20.0	0.0	23.4	20.0
7年10月～12月期	16.6	0.0	16.6	10.0
来期見通し1～3月期)	3.4	▲3.4	10.0	▲10.0

<調査企業が感じている景気判断コメント>

- ・新燃岳噴火による土石流災害防止の緊急工事として、地元業者の弊社と随意契約で除石工事が2件発注され、その後も類似の関連工事を入札で受注できたので、請負工事額の増加及び採算性も向上している。 (一般土木建築業)
- ・窓交換の補助が12月で終了。来期が非常に心配。新しい需要を作り出さないと。(建設リフォーム工事業)
- ・強みとしているリフォーム及び施設の大規模改修の相談案件、受注が増えているが官民共に新築工事の減少に歯止めがかからない状態である。エリア全体の人口減少が今後の大きな不安要素になってきている。 (一般土木建築業)

経営上の問題点

第1位	材料価格の上昇	33.3%	(前期比 -13.1)
第2位	従業員の確保難	29.6%	(前期比 +11.7)
第3位	熟練技術者の確保難	14.8%	(前期比 +11.2)

【小売業】 有効回答数 61 企業

調査対象企業内訳：飲食料品(29)、各種商品(6)、織物・衣服・身の回り品(6)、家具・建具(3)、
自動車・自転車小売業(1)、その他(16)

	売上額		採算		資金繰り		業況	
6年10月～12月期		▲28.1		▲35.1		▲21.4		▲25.9
7年1月～3月期		▲20.7		▲24.1		▲10.4		▲13.8
7年4月～6月期		▲16.4		▲30.0		▲14.7		▲23.3
7年7月～9月期		▲29.5		▲41.0		▲29.5		▲37.7
7年10月～12月期		▲39.4		▲47.6		▲31.7		▲39.3
来期見通し(1～3月期)		▲37.7		▲41.0		▲28.4		▲32.7

<調査企業が感じている景気判断コメント>

- ・新内閣の誕生により、これまでの緊縮財政から積極財政へ、スピード感溢れる転換に期待したいし、期待するより他ない。
(ガソリンスタンド)
- ・物価高で販売価格の上昇、客の高齢化など、ニーズが変わってきたことを的確に捉えられない。8月の豪雨で被災し、未だ店舗と設備の復旧作業中。11月中に再開目標。全面リニューアルと前向きに考え、売上増を目指す。
(スーパーマーケット)
- ・主要部門であるギフト市場の縮小、顧客の高齢化に伴う売上減少に拍車がかかっている。新規事業及び他部門の売上強化が急がれる。賃金価格の上昇も経営者にとっては厳しい。
(各種商品小売業)

経営上の問題点

第1位 仕入単価の上昇	24.5%	(前期比 -3.3)
第2位 購買力の他地域への流出	13.2%	(前期比 +5.8)
第3位 店舗の狭隘・老朽化	13.2%	(前期比 +0.2)

【サービス業】 有効回答数 74 企業

調査対象企業内訳：洗濯・理美容業(17)、飲食店(23)、自動車整備業(12)、宿泊業(8)、
運送業(1)、その他(13)

	売上額		採算		資金繰り		業況	
6年10月～12月期		1.3		▲24.4		▲11.7		▲11.5
7年1月～3月期		▲16.9		▲32.5		▲18.5		▲26.0
7年4月～6月期		▲17.3		▲26.3		▲14.7		▲22.4
7年7月～9月期		▲15.8		▲22.3		▲18.6		▲15.8
7年10月～12月期		▲16.2		▲25.7		▲9.6		▲21.6
来期見通し(1～3月期)		▲17.8		▲28.8		▲10.9		▲23.0

<調査企業が感じている景気判断コメント>

- ・原材料・人件費の増加に加え光熱費の上昇もあり、薄利多売では会社状況を悪化させる為、販売価格を上げ、品質向上と顧客満足度向上に舵を切った。客数は減ったが売上高と収益率の改善が図れ、従業員不足も改善できた。
(食堂・レストラン業)
- ・同じビジネスモデルを長年続けてきたが、業界として限界に近い。新しいビジネスモデルを模索している。
(クリーニング業)
- ・材料等仕入単価の上昇は、今後も引き続き上昇していく可能性があり財務悪化を懸念している。
(自動車一般整備業)

経営上の問題点

第1位 材料等仕入単価の上昇	29.0%	(前期比 -7.5)
第2位 店舗施設の狭隘・老朽化	17.7%	(前期比 +5.0)
第3位 利用者ニーズの変化	19.4%	(前期比 +9.9)

全産業【鹿児島県】

2025年10月～12月期

全産業

鹿児島県

2025年10月～12月期

	今期(前年同期比)					来期(対前年同期比来期見通し)				
	企業数	↗	→	↘	D I	企業数	↗	→	↘	D I
売上・完成工事・加工・収入額	206	19.9	41.7	38.3	-18.4	205	13.7	54.1	32.2	-18.5
売上(加工)単価・客単価	176	22.7	57.4	19.9	2.8	176	14.8	65.9	19.3	-4.5
売上(加工)数量	41	9.8	61.0	29.3	-19.5	41	17.1	65.9	17.1	0.0
客数	61	14.8	37.7	47.5	-32.8	61	6.6	50.8	42.6	-36.1
利用客数	73	16.4	45.2	38.4	-21.9	74	8.1	58.1	33.8	-25.7
資金繰り	203	8.9	70.0	21.2	-12.3	204	7.4	74.0	18.6	-11.3
輸出額	14	14.3	71.4	14.3	0.0	13	0.0	84.6	15.4	-15.4
受注(新規契約工事)額	30	26.7	60.0	13.3	13.3	30	30.0	53.3	16.7	13.3
原材料・商品等仕入れ単価	204	77.9	20.6	1.5	76.5	203	65.5	33.0	1.5	64.0
原材料在庫数量	40	12.5	72.5	15.0	-2.5	40	12.5	72.5	15.0	-2.5
商品仕入数量	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
商品仕入額	61	47.5	27.9	24.6	23.0	61	39.3	32.8	27.9	11.5
商品・商品在庫数量	100	7.0	77.0	16.0	-9.0	100	2.0	82.0	16.0	-14.0
採算(経常利益)	206	7.8	55.8	36.4	-28.6	205	5.9	61.5	32.7	-26.8
従業員(含臨時・パート)	176	2.3	87.5	10.2	-8.0	176	3.4	75.0	4.0	-0.6
外部人材(請負・派遣)	97	9.3	85.6	5.2	4.1	103	4.9	89.3	5.8	-1.0
設備操業率	38	7.9	65.8	26.3	-18.4	38	13.2	68.4	18.4	-5.3
引合	66	13.6	72.7	13.6	0.0					0.0
受注・契約残	69	10.1	75.4	14.5	-4.3					0.0
業況(自社)	206	9.7	58.3	32.0	-22.3	206	5.8	65.0	29.1	-23.3

	今期(前期比)					来期(対当期比見通し)				
	企業数	↗	→	↘	D I	企業数	↗	→	↘	D I
売上・完成工事・加工・収入額	206	25.7	42.2	32.0	-6.3					
売上(加工)単価・客単価	176	21.6	59.1	19.3	2.3					
売上(加工)数量	41	12.2	51.2	36.6	-24.4					
客数	61	23.0	36.1	41.0	-18.0					
利用客数	74	20.3	47.3	32.4	-12.2					
資金繰り	204	10.8	70.6	18.6	-7.8					
業況(自社)	206	14.1	61.7	24.3	-10.2	205	7.8	65.4	26.8	-19.0
受取手形期間	40	0.0	95.0	5.0	-5.0	40	0.0	97.5	2.5	-2.5
長期資金借入難度	160	4.4	83.1	12.5	-8.1	158	5.1	82.9	12.0	-7.0
短期資金借入難度(含手形割引)	135	7.4	85.2	7.4	0.0	136	7.4	86.0	6.6	0.7
借入金利	157	21.7	78.3	0.0	21.7	156	17.9	81.4	0.6	17.3

	今期の水準				
	企業数	↗	→	↘	D I
業況(自社)	206	9.7	55.3	35.0	-25.2
生産に対する原材料在庫	41	7.3	82.9	9.8	-2.4
売上に対する製品在庫	100	6.0	88.0	6.0	0.0
採算(経常利益)	206	18.9	61.2	19.9	-1.0
引き合い	66	6.1	75.8	18.2	-12.1
生産設備	41	4.9	85.4	9.8	-4.9
従業員(含臨時・パート)	183	0.5	74.3	25.1	-24.6

上2表

- ↗ : 増加・上昇・好転・長期化・容易
- : 不変
- ↘ : 不足・低下・悪化・短期化・困難

左表

- ↗ : 良い・過剰・黒字・活発
- : ふつう・適正・収支トントン・ふつう
- ↘ : 悪い・不足・赤字・低調

産業別 過去3年間の業況DI(前年同期比)の推移
(2023年1～3月期～2025年10～12月期)

